

遭難韓国人の遺骨(いわゆる徴用工)調査報告書

田村?
北東アジア課
久 一

去る5月18日から同29日までの12日間、厚生省との共同で長崎県の壱岐及び対馬に埋葬されていると言われる遭難韓国人遺骨の実態調査のため出張したところ、その概要次のとおり報告する。

なお、本件は、旧三菱重工広島機械製作所の韓国人徴用工240名とその引率者の家族6名計246名が昭和20年9月15日広島を出発、翌16日頃木船で北九州の戸畑港を出港(注:九州出発時点については、10月説もある。)韓国への帰国の途中、台風に会い遭難し、その遺体の多くが長崎県の壱岐、対馬に漂着、埋葬されたまま放置されているとして問題となったもので、第80、90及び98国会(社労委)においても本件が取り上げられた経緯がある。

1. 壱岐

芦辺町役場、地元関係者の話及び発掘状況次のとおり。

- (1) 当時の記録としては、田河町役場(現在の芦辺町の前身)作成の「海難発生状況表」(昭和20年8月15日から

昭和26年9月10日まで)と箱崎村横浜海岸に漂着した14体の「死体検案書」があるのみで、物的証拠となるものはない。(大皿川恵町役場課長)。

(2) 昭和20年10月10日夜、戦時中日本国内に居住していた朝鮮出身の人達が終戦により祖国に引揚げ帰還の途中、台風を避け、芦辺港内に避難、淀泊中、強い風波により引揚げ船(機帆船)が転覆、33名が救助され168名が死亡した。死亡者のうち154体が大石触海岸から芦辺浦海岸一帯に、14体が中山触横浜海岸にそれぞれ漂着した。大石触海岸から芦辺浦海岸に漂着した遺体は清石浜に、中山触横浜海岸に漂着した遺体は龍神崎に、それぞれ埋葬している。(町役場課長)。

(3) 救助された33名は、当時の浦長(現在の町内会長)である篠崎家や横山家などに分宿し、その後帰国した。救助された者の中には、山口県の宇部からの引揚げで、600円稼ぎ、帰る途中であるとして10円紙幣を沢山乾かしていた者や、済州島出身であると言っていた者がいたと聞いている。(吉富聡事件当時町役場職員)。

また、遭難者は中山触横浜海岸に漂着した14体の死体検案書にもあるように女、子供が多くおり、殆んどが家族連れであつたと思われる。(町役場課長)。

(注：検案書によると男4名、女10名)。

(4) 遭難船について以前町役場が関係者から聴取したところ、船は「白塗りで100トン程度」(吉山芳太郎当時漁業)、「黒塗りで大きさは分らない」(田口伊勢次郎)と全く正反対の証言があつた。(町役場課長)。

(5) 当時死体を収容した者(清石浜=京崎美太郎 昭30.3.28死亡、龍神崎=榎本満次郎 ^{昭37} 4.9.7.31死亡)は、すでに死亡し、また当時の事情を知る者も殆んどいない。

また、埋葬地である清石浜は5,237㎡、龍神崎は1,289㎡と広い上、砂防工事等により地形が当時とは変つてゐるため、埋葬地点が必ずしも明確でない。特に龍神崎は、昔、伝染病にかかり死亡した者を埋葬したところで、現在は、海難事故により身元不明の遭難者を埋葬している(町役場課長)。当時埋葬したと言われる地点は多分、波浪に浸食され、現在はないと思う(布谷嘉治清石浜慰霊碑建立者)。

(6) 終戦直後、清石浜は、消防団の演習場であつた。消防団の演習をしていた時、人骨が多くでてきたので、不思議に思つていたところ町の古老より本件話を聞いた。自分(布谷)は朝鮮からの引揚者であり、韓国にお世話になつたのでその恩返しの意味で昭和42年3月町の有志(伊

豆、坂本)と語らい、霊を慰めるために、そこに「大韓
 民国人慰霊碑」を建立した。(布谷)。

- (7) 慰霊碑建立の際、清石浜から8体、龍神崎から6体そ
 れと戦前から勝本に埋葬していたのを発掘し、これを合
 わせて清石浜の慰霊碑の下に埋葬した。

慰霊碑建立の場所の選定は、その辺りが中心で、多く
 の遺骨が埋葬されていそうだったからで特別の理由は
 ない。(布谷)。

- (8) 昭和51年8月、町役場の許可を得て、崔成源民団広島
 県地方本部長及び前畠雅俊(筆名深川宗俊)ら広島市の
 民間グループが清石浜で78体、龍神崎で⁵7体、計83体を
 発掘した。(注、広島市の民間グループは、86体発掘した
 と言っており、発掘数3体の食い違いがあるが、これに
 ついて町当局は、遺体数確認には、慎重を期したが、若
 干のプラス、マイナスがあると考える旨答えた)(町役場
 課長)。

遭難者の遺骨発掘状況

埋葬場所	遺体数	発掘状況		未発掘数
		昭4 2.3	昭5 1.8	
清石浜	154	8	78	68
龍神崎	14	6	5	3
計	168	14	83	71

- (9) 地元関係者の証言に基づき、清石浜及び龍神崎を発掘したところ、清石浜については、2日間にわたり、パワーショベルを動員し、埋葬可能と思われる個所を殆んど発掘したが、発見することができなかった。龍神崎についても埋葬したと言われる地点に最も近いところを発掘したが、ここでも発見できなかった。埋葬地点は、関係者の証言通りその後の波浪により浸食され、流失したものとみられる。なお、同地は、無縁墓地である関係上、発掘には特に慎重を期した。

II 対島

地元関係者の話及び発掘状況次のとおり。

1. 豆酸

- (1) 時期は、日本軍が6名を残し引揚げ、進駐軍が来ていないときであつたので9月末と思う。早朝1人の女が救助を求めて来たので、現場に急行したところ、現場には、警防団が先に着いていた。遭難船には生存者がおり、これらは、すべて女、子供で8名であつた。

なお、遭難船は、約30トンで、元の瀬戸に座礁、難破し、船には、沢山の反物が積んでいた。(永尾剛当時在郷

軍人分会長、その後町役場収入役)。

- (2) 漂着した死体は、20体位で、うち4体は首がなかった。男女の数は、覚えていない。

死体は現場の元の瀬戸の山手に近いところに石垣を組み、バラスを敷き、山の土をかぶせた。ほかに、元の瀬戸から100m程離れた「牛かせ」の浜に1名元の瀬戸と同様にして埋葬した。(永尾)。

- (3) 救助した8名の婦女子は、後日、美津島町の鶏知にある大韓民国世話会に引渡した。(永尾)。

- (4) 当時の埋葬場所は、昭和34年の第14号台風で、地形が変ってしまったっており、多分、流失しているものと思う(永尾)。

- (5) 「元の瀬戸」及び「牛かせ」の現場を発掘したが、いずれも発見できなかった。埋葬場所は、海岸波打際に近いのでその後の台風、波浪により流失したものとみられる。

2. 品木島

- (1) 埋葬しているのは、昭和20年9月の台風のと、富ヶ浦に漂着した死体で約30体と思うが、26～7体という人もいる。死人は裸体状態で、中年の者が多く、女性もいた。物的証拠はないが、韓国人に間違いはない。(阿比留勲

当時区長、農漁業)。

(2) 埋葬地点を発掘したところ、遺骨の一部を発見、確認した。

3. いとり小島、国崎、黒島、池畠

(1) 昭和20年9月末の台風の際、2名が自力で竹崎砲台に救助を求めてきたので、そこで食事をさせた。(小田豊当時町役場職員)。

(2) 国崎、いとり小島、池畠の3カ所で約30体(国崎5体×2カ所、池畠10体、いとり小島4～5体)である。死体は全裸で、男、女、子供で、男が多い。誰いうとなく韓国への引揚げ者とのことである。埋葬場所は、その後の台風及び護岸工事で地形が変わっている。(小田)。

(3) 池畠については、昭和37年頃の護岸工事の際、遺体10体を発掘、これを山手に仮埋葬し、お坊さんと呼んで供養した。(永留近志町役場課長、築城和美漁業)。

(4) 黒島については、死体は約15体(23体という人もいる)で、そのうち子供が3人、あとは、大人で男が多く、女もいた。台風は枕崎と思う。死体は殆んど裸で韓国人と思う。(阿比留松太郎当時農漁業)。

(5) いとり小島、国崎、黒島につき、それぞれ埋葬地点と思われる個所を発掘したが、遺骨は発見できなかった。

埋葬地点は、いずれも海岸、波打際に近いため、その後の台風、波浪により流失したものとみられる。

- (6) 池島については、昭和37年護岸工事の際、発見され、山手に仮埋葬(10体)しているのを発掘、確認した。そのほか、上記地点より約200m離れた個所にも男女1体ずつ計2体が埋葬されているとの証言(築城及び中島次男農業)があり、そこを発掘したところ、遺体を発見した。

Ⅲ 調査結果

- (1) 壱岐に埋葬されているものは、昭和20年10月10日の阿久根台風、対馬は、同年9月17日の枕崎台風により、遭難したものとみられる。
- (2) 上記遺骨は、地元関係者の話を総合すれば、ほぼ韓国人であることに間違いのないものとみられるが、これが、旧三菱重工の徴用工であるか否かについては、分らない。しいて云うならば、次のことからその可能性は少ないと思われる。
- (i) 旧三菱重工の徴用工一行が昭和20年9月17日頃戸畑を出港したとするならば、壱岐ではなく、対馬のものと思われる。
- (ii) 対馬の豆酸(8名)及び美津島町のもの(いとり島、国

崎、黒島、池島)(2名)は、それぞれ救助された者がいる。

(iii) また、徴用工は、一般的に独身者、仮りに、妻帯者であつたとしても単身日本に来ていたものと考えられ、壱岐、対馬いずれも女、子供が数多く含まれている。

(3) 壱岐の龍神崎及び対馬の豆酸(約10体)、いとり小島(約4～5体)、国崎(約10体)、黒島(約15～6体)は、いずれも海岸、波打際に近いため、その後の台風等の波浪により流失したものとみられる。

今回埋葬が確認できたのは、対馬の品木島約30体、池島12体の計42体である。

しかしながら、壱岐の清石浜には154体が埋葬され、そのうち86体がすでに発掘されているが、残る68体は、埋葬地域のどこかにあるものとみられる。

IV 今後の措置

(1) 今回埋葬が確認された42体(うち池島の12体は韓国人2名が救助されているので、韓国人であることが確認されるが、品木島の30体は関係者の証言等により韓国人の確率が高い)及び清石浜に埋葬されているであろう68体(韓国人であることを確認)及び昭和51年8月広島市の市民グループが発掘し、現在広島県沼隈郡にある「 」に安置

している83体(韓国人であることを確認)と合せ、合計193体の遭難韓国人の遺骨をどう処理するかが今後の問題となってくる。

- (2) 今回政府の手により、埋葬が確認されたにもかかわらず、そのまま放置しておくのは、種々の観点から好ましくない。韓国政府に本件遺骨の引取りの意向があれば、できるだけ早く本収集を行い引渡すべきである。その場合、現在確認できた遺骨(42体)のみとするか、また、荏岐の清石浜を再度発掘(68体)し、これをも含めるか、さらには、昭和51年8月広島市の民間グループが保管している83体(韓国人であることを確認)を含めるかの問題がある。
- (3) 広島市の民間グループのものを含めるとするならば、同グループが如何なる対応を示すか現在のところ不明であるが、83体を昭和51年8月より「 」に預けているので、その保管料、及び1柱につきいくらかの供花料(補償金)の如きものを要求してくることが予想される。
- (4) なお、荏岐の清石浜を再発掘する場合には、約250万円程度の費用が必要である由。